

第4章 キャリア意識

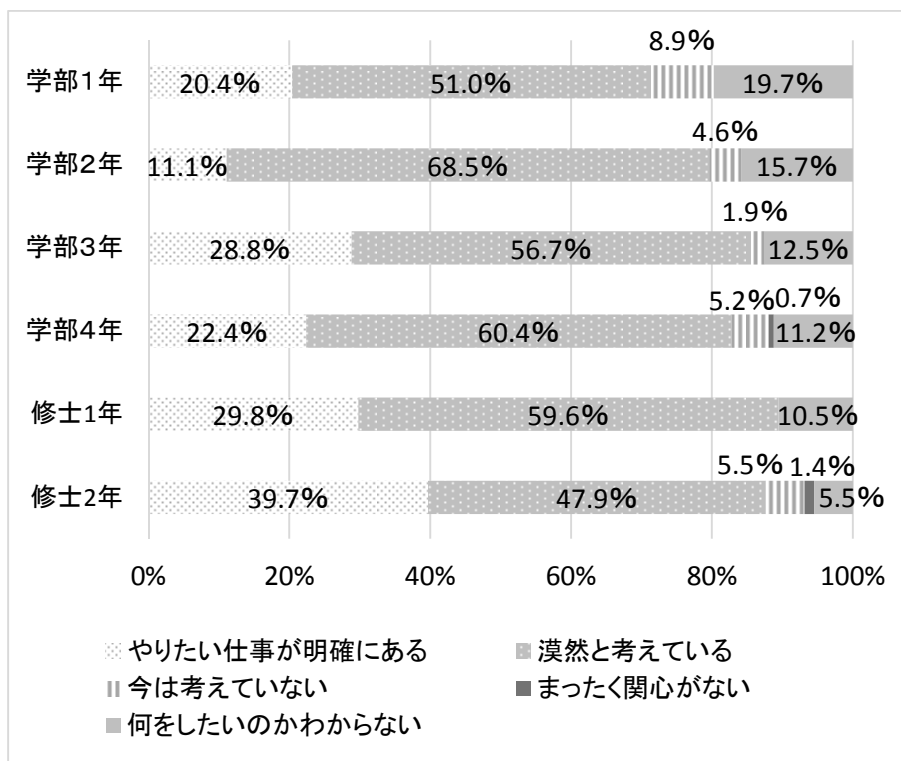
1. 将来の職業をどのように考えているか

学生が将来の職業やキャリアについてどのように考えているのか、について「あなたは自分の将来の職業などのキャリアについて、どのように考えていますか」として選択肢からひとつだけ選んでもらい回答を得た。学年別の集計結果を図表 4-1 に示す。

すべての学年を通じて「漠然と考えている」という回答が最も多く、いずれの学年も5～6割がそのように回答している。「やりたい仕事がある」は、学部1年生20.4%、2年生11.1%、3年生28.8%、4年生22.4%でありいずれの学年も2割程度である。

修士院生では、「やりたい仕事がある」は修士1年29.8%、修士2年39.7%と学部生に比べて職業に対する意識が明確にあることが明らかになった。

「何をしたらいいのかわからない」と回答した割合は、学部1年生では19.7%である。この項目は学年が上位になるにつれて割合が少なくなり、漠然とではあるものの次第に職業およびやりたいことというものが意識化されてくることが推察された。平成23年度に実施した調査結果も同様の傾向であった。



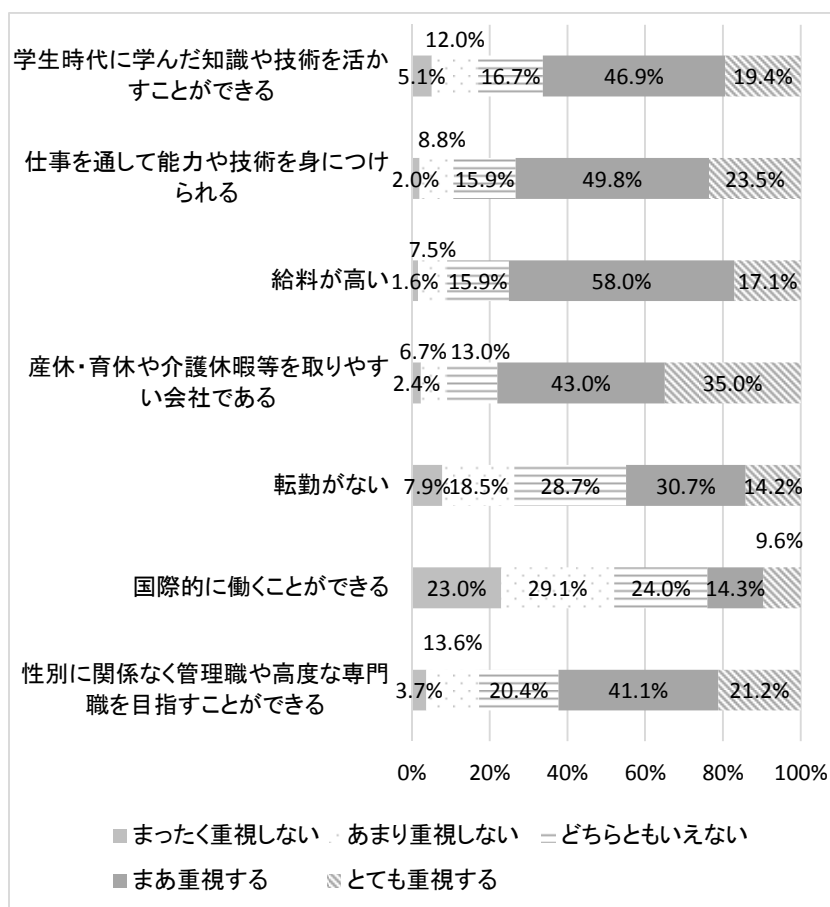
図表 4-1. 将来の職業などのキャリアについての考え

2. 就職先を決定する際に重視すること

「あなたは就職先を決めるときに、次のどのようなことを重視しますか」として、「給与」など7項目について尋ねた。はじめに学部生の結果を図表4-2に示す。

学部生が就職先を決定する際に重視することとして「産休・育休や介護休暇等を取りやすい会社である」が、「とても重視する」35.0%、「まあ重視する」43.0%を合わせると78.0%と約8割以上の学生が出産や育児、介護の際に休業を取得しやすい職場環境を重視していることが明らかとなった。次いで「給料が高い」が（「とても重視する」と「まあ重視する」の合計）75.1%、「仕事を通して能力や技術が身につけられるから」（「とても重視する」と「まあ重視する」の合計）73.3%である。この結果から、本学の学生が就職活動の際に重視することとして、女性が産休や育休などを取得しても働きやすいこと、給料が高いこと、仕事を通じてスキル・アップができることなどが上位であることが明らかとなった。

平成23年度の調査結果では、「産休・育休や介護休暇等を取りやすい会社である」は、「とても重視する」は47%、「まあ重視する」は42%であったことから約9割程度の学生が重要視していたが、今回はこの項目を重要視する学生が少ない割合となった。特に「とても重視する」と回答した割合は、本調査は平成23年度調査よりも10ポイントほど少ない。また「給料が高い」は、平成23年度調査と今回調査は同程度、「仕事を通して能力や技術が身につけられるから」は今回調査のほうが13ポイント程度多い割合で重要視していることが明らかとなった。

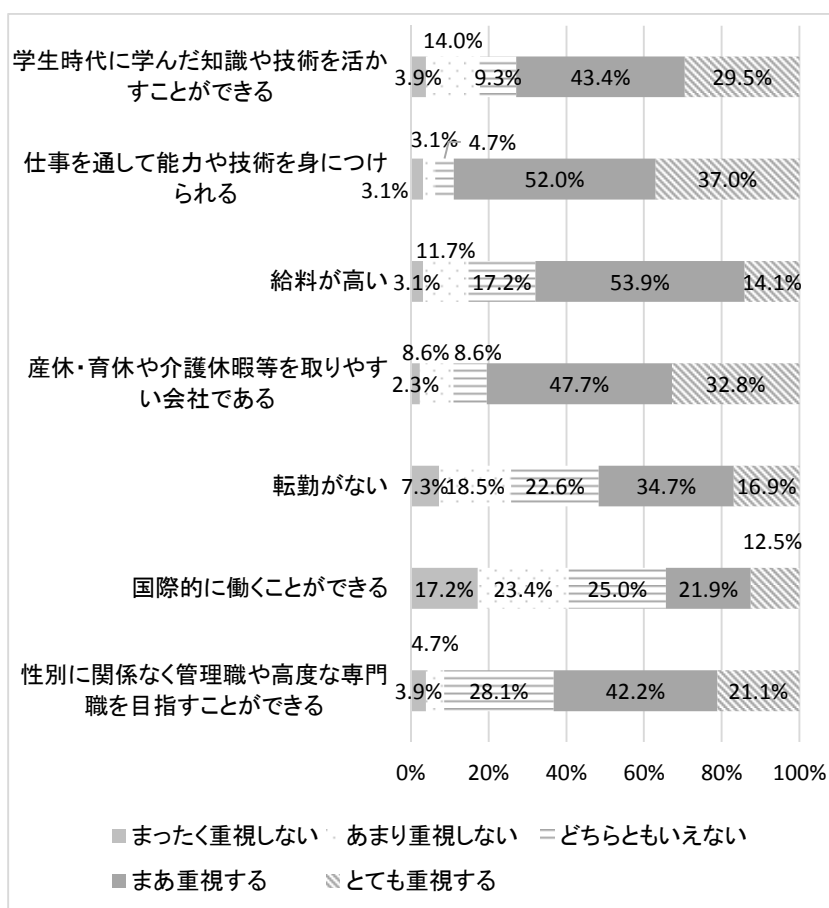


図表4-2.就職の際に重視すること（学部生）

次に修士院生の結果を図表 4-3 に示す。修士院生が就職先を決定する際に、重視する人が多い項目は「仕事を通して能力や技術が身につけられるから」であり、「とても重視する」37.0%、「まあ重視する」52.0%を合わせると89.0%と約9割の院生が重要視していることが示された。次いで、「産休・育休や介護休暇等を取りやすい会社である」が「とても重視する」32.8%、「まあ重視する」47.7%と約8割の院生が重要視している。

学部生よりも重視する割合が多い項目は、「学生時代に学んだ知識や技術を活かすことができる」（「とても重視する」と「まあ重視する」の合計）72.9%（学部生 66.3%）、「国際的に働くことができる」（「とても重視する」と「まあ重視する」の合計）34.4%（学部生 23.9%）である。この結果から修士院生は、大学院で学んだことをキャリアに活かし、また国際的に働くことを重視する割合が学部生より多いことが示唆された。

平成 23 年度調査結果との比較では、「仕事を通して能力や技術が身につけられるから」は、「とても重視する」は21%、「まあ重視する」は48%であったことから約7割程度の学生がこの項目を重要視していたが、今回はこの項目を重要視する学生が多い割合となり、就職後もスキル・アップを目指す院生の割合が多くなったことが推察された。



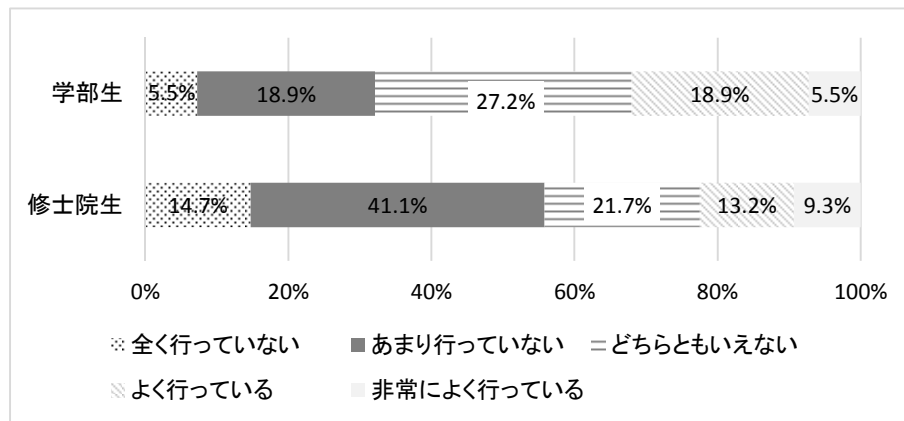
図表 4-3.就職の際に重視すること（修士院生）

3. 自己分析や情報収集に関すること

今回の調査から新たな調査内容として、キャリアを考える際に行う自己分析や情報収集について、学生がどの程度行っているかという質問項目を設けた。具体的には、「本や雑誌、インターネットでの検索」など7項目について「全く行っていない」から「非常に良く行っている」までの5件法で回答を得た。以下に主要5項目についての結果を示す。

(1) 本や雑誌、インターネットでの情報収集

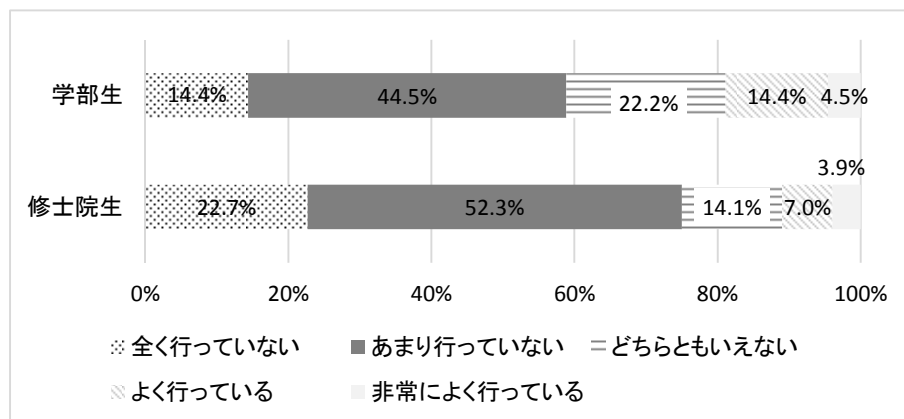
はじめに「本や雑誌、インターネットなどで仕事や働くことに関連する記事を読む」についての結果を図表4-4に示す。学部生では、「非常によく行っている」5.5%、「よく行っている」18.9%と約25%が行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」9.3%、「よく行っている」13.2%と約23%が行っている。全体的に約2割程度の学生がキャリアに関する情報収集をよく行っているようである。



図表4-4. 「本や雑誌、インターネットなどで仕事に関する記事を読む」

(2) 身近な方から仕事について話を聴く

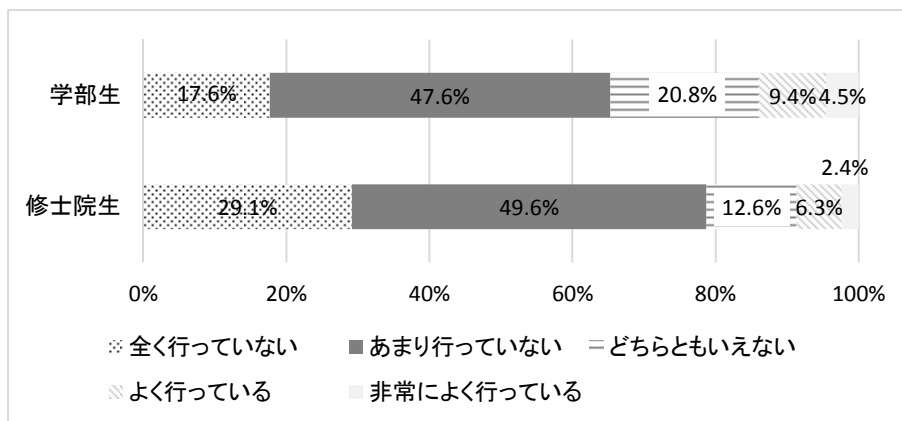
次に、「将来の仕事について友人や先輩、家族などから話を聴く」についての結果を図表4-5に示す。学部生では、「非常によく行っている」4.5%、「よく行っている」14.4%と18.9%が行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」3.9%、「よく行っている」7.0%と約11%が行っている。



図表4-5. 「将来の仕事について友人や先輩、家族などから話を聴く」

(3) 自分の長所や短所を考える

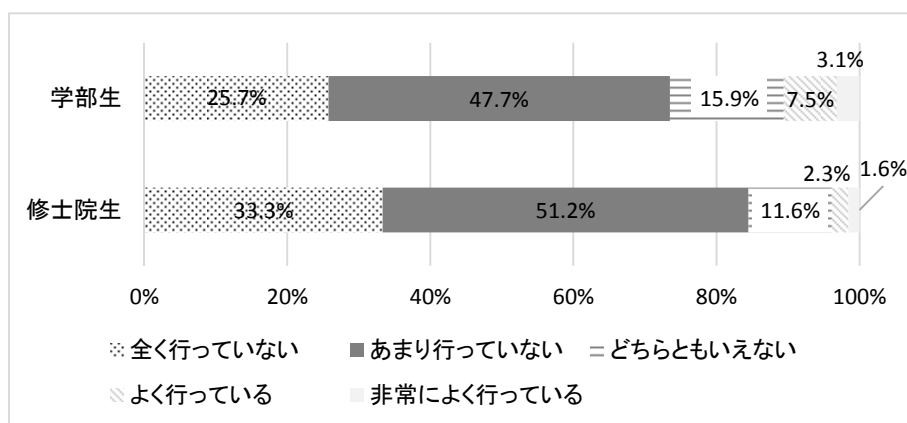
「自分の長所や短所を考えてみる」についての結果を図表 4-6 に示す。学部生では、「非常によく行っている」4.5%、「よく行っている」9.4%と合わせて約 14%がよく行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」2.4%、「よく行っている」6.3%を合わせると約 9%がよく行っているが、学部生が行う割合よりも少ない。



図表 4-6. 「自分の長所や短所を考えてみる」

(4) 自分の生き方を想像する

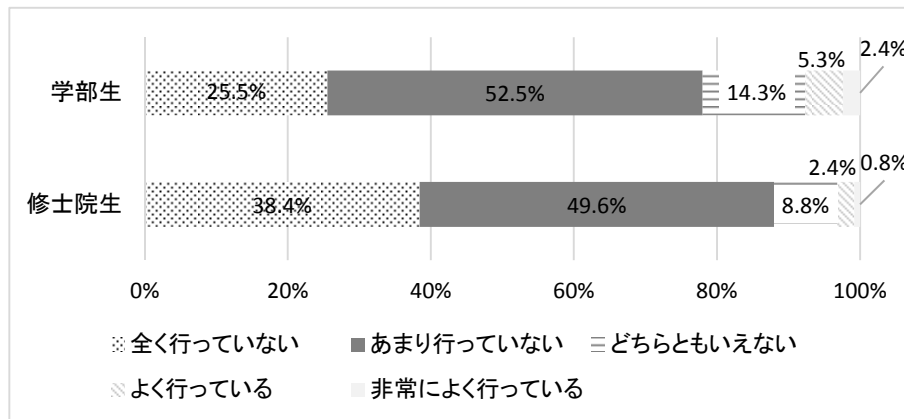
「これからの自分の生き方について想像してみる」についての結果を図表 4-7 に示す。学部生では、「非常によく行っている」3.1%、「よく行っている」7.5%を合わせると約 11%がよく行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」1.6%、「よく行っている」2.3%と約 4%の院生がよく行っていると回答したが、その割合は学部生の半分程度である。



図表 4-7. 「これからの自分の生き方について想像してみる」

(5) 自分が好きなこと、得意なことを考えてみる

「自分が好きなこと、得意なことを考えてみる」という質問に対する結果を図表 4-8 に示す。学部生では、「非常によく行っている」2.4%、「よく行っている」5.3%を合わせると約 8%がよく行っている。これに対して修士院生では、「非常によく行っている」0.8%、「よく行っている」2.4%と約 3%の院生がよく行っているが、この項目も学部生の半分の割合であった。



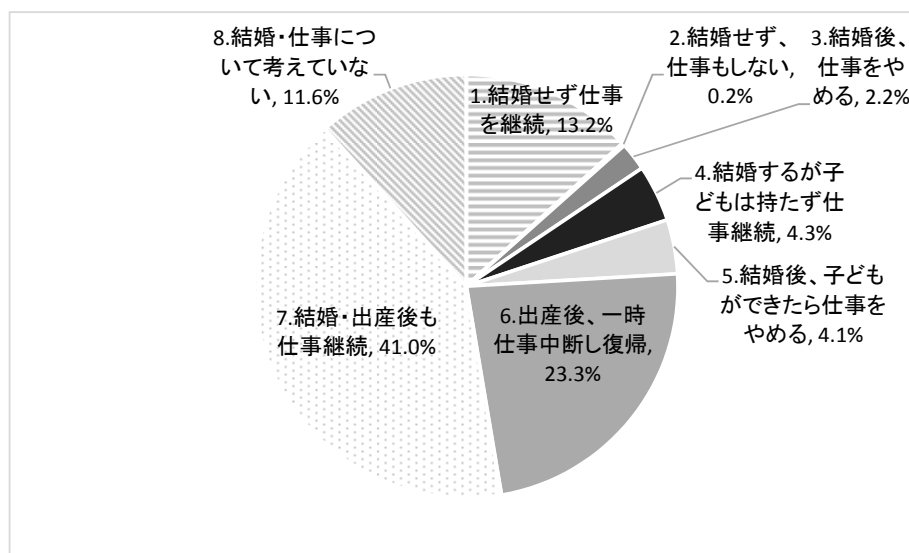
図表 4-8. 「自分が好きなこと、得意なことを考えてみる」

4. ライフコースの考え方：将来の結婚と仕事への価値観

将来の結婚と仕事に対する考え方について「将来の結婚と仕事への考え方について、あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください」として「1. 結婚せず、仕事をずっと続ける」「2. 結婚せず、仕事もしない」「3. 結婚したら仕事をやめる」「4. 結婚するが子どもはもたず、仕事をずっと続ける」「5. 結婚して子どもができたら仕事をやめる」「6. 結婚して子どもができたら仕事を一旦やめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」「7. 結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」「8. 結婚や仕事について、まだ考えていない」の8項目から回答を得た。

(1) 学部生

学部生についての結果を図表 4-9 に示す。最も多いのは「7. 結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」41.0%であった。平成 22 年調査でも 42.5%と同様に高い割合であった（お茶の水女子大学 2012）。次いで、「6. 結婚して子どもができたら仕事を一旦やめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」23.3%であり、平成 22 年調査でも 26.8%と同様の傾向にあった。今回の調査で多かった回答は「1. 結婚せず、仕事をずっと続ける」13.2%であり、平成 22 年調査での 2.4%と比べると結婚を望まない学部生の割合は増加している。現代の女性の未婚化、非婚化を表していることがうかがえる。そして「3. 結婚したら仕事をやめる」は 2.2%であり、平成 22 年調査での 13.8%と比べると圧倒的に少ない割合であり、学生が伝統的な性別役割分業を支持しなくなっていることが推察された。

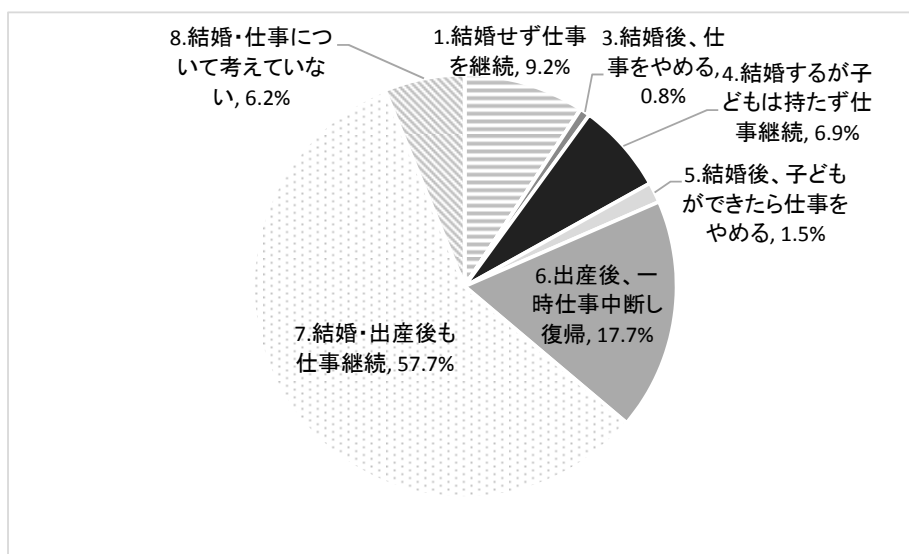


図表 4-9.結婚と仕事への価値観（学部生）

(2) 修士院生

修士院生についての結果を図表 4-10 に示す。最も多いのは学部生同様「7. 結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」57.7%であり、約 6 割がこのように考え、これは平成 22 年調査と同じ傾向であった（お茶の水女子大学 2012）。次いで、「6. 結婚して子ど

もができれば仕事を一旦やめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」17.7%であり、平成22年調査22.4%よりもやや少ない割合である。修士院生の回答では、「4. 結婚するが子どもはもたず、仕事をずっと続ける」が6.9%であり、学部生4.3%および平成22年調査1.9%と比べて多い割合であることが特徴である。この結果は、今回の修士院生が学部生や過去調査と比べて、結婚は望むが子どもを望まない割合が多いことが示しているが、現代の共働きの母親のキャリア形成が難しいことを反映している可能性があるのではないだろうか。一方で「3. 結婚したら仕事をやめる」はわずか0.8%であり、平成22年調査での9.9%と比べると圧倒的に少なく、学部生と同様の傾向であった。



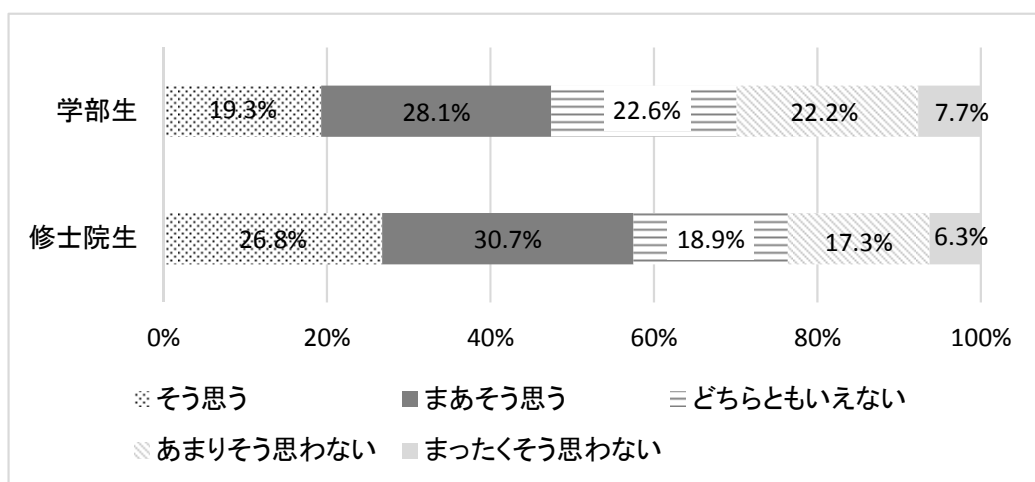
図表 4-10. 結婚と仕事への価値観（修士院生）

5. 性別役割分業意識

性別役割分業意識について、「結婚後の家族における男女の役割と仕事への考えについて、あなたの考えにもっとも近い数字を1つ選んでください。」として、「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたず、育児に専念すべきである」「経済的に家族を支えるのは夫の役割である」「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」「妻も仕事と自分の収入をもつべきである」の4項目について、「そう思う」から「まったくそう思わない」の5件法で回答を得た。結果を図表4-11～14に示す。

(1) 「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたず育児に専念すべき」

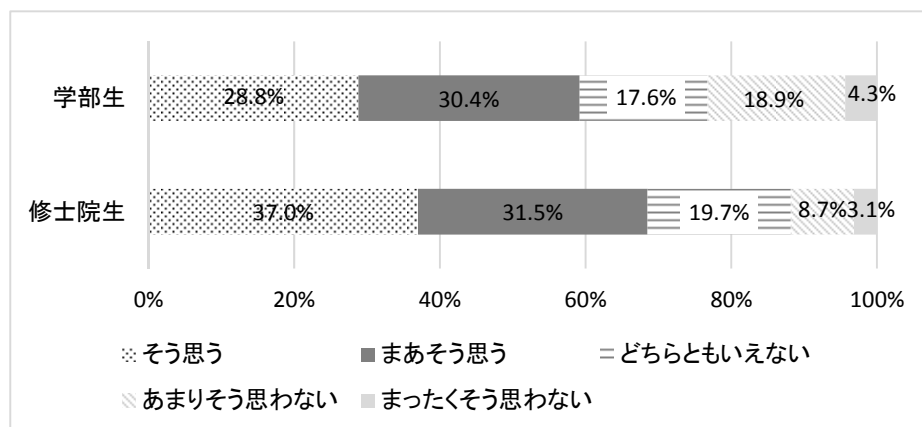
「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたず、育児に専念すべきである」という質問に対する結果を図表4-11に示す。学部生では、「そう思う」19.3%、「まあそう思う」28.1%を合わせると47.4%と約半数がこれに賛成している。修士院生では、「そう思う」26.8%、「まあそう思う」30.7%を合わせると57.5%と約6割がこれに賛成している。本学の学生は、キャリア形成に対する意識が高いことが他の項目で示唆されているが、この項目では、家族においては伝統的な役割を支持する人が多いことが明らかになった。さらに学部生よりも修士院生の方がその傾向は強い。



図表 4-11. 「子どもが3歳までは、母親は育児に専念」

(2) 「経済的に家族を支えるのは夫の役割」

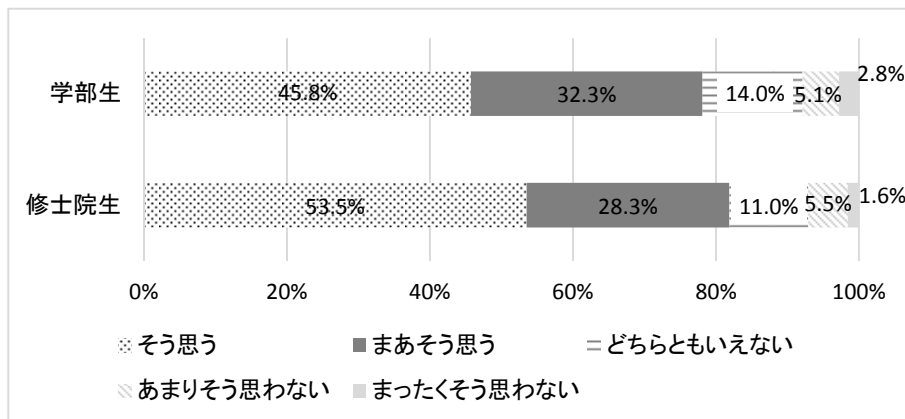
「経済的に家族を支えるのは夫の役割である」についての結果を図表 4-12 に示す。学部生では、「そう思う」28.8%、「まあそう思う」30.4%を合わせると 59.2%と約 6 割がこれに賛成している。修士院生では、「そう思う」37.0%、「まあそう思う」31.5%を合わせると 68.5%と約 7 割がこれに賛成している。(1)の項目と同様に、学部生も修士院生も伝統的な性別役割を支持する人が多い。他の項目によれば、結婚後も就業を継続する意識が高いが、自身に収入があっても家族における稼得役割は夫と考えていることが明らかになった。



図表 4-12. 「経済的に家族を支えるのは夫の役割」

(3) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」

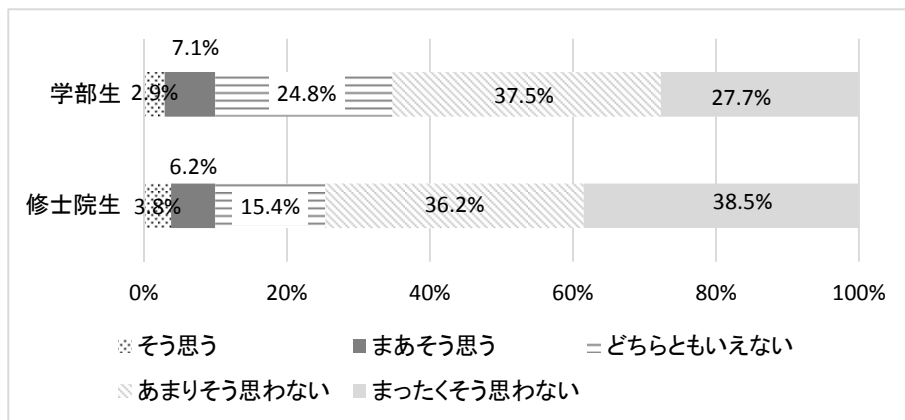
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」についての結果を図表 4-13 に示す。学部生では、「そう思う」45.8%、「まあそう思う」32.3%を合わせると 78.1%と約 8 割がこれに賛成している。修士院生では、「そう思う」53.5%、「まあそう思う」28.3%を合わせると 81.8%と学部生と同様に約 8 割がこれに賛成している。学部生も修士院生もこの項目が示す伝統的な性別役割分業を支持する割合が前の項目よりも多い。



図表 4-13. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」

(4) 「妻も仕事と自分の収入をもつべき」

最後に「妻も仕事と自分の収入をもつべきである」についての結果を図表 4-14 に示す。学部生では、「そう思う」2.9%、「まあそう思う」7.1%を合わせると 10.0%と 1 割の学生だけがこれに賛成している。修士院生でも傾向は同じで、「そう思う」3.8%、「まあそう思う」6.2%を合わせて 10.0%と 1 割がこれに賛成している。学部生も修士院生も仕事を続けたいという意識はあるものの、妻として自身の仕事と収入をもつということの実感が伴わないために、このような回答傾向になっていることが推察された。



図表 4-14. 「妻も仕事と自分の収入をもつべき」